

(別紙)

東京電力福島第一原子力発電所における海水サンプリング分析について

平成23年3月22日

原子力安全・保安院

1. 東京電力は、3月21日の14時30分に、福島第一原子力発電所1～4号機放水口から南約100mの海岸線から海水を採取して核種分析を実施しました。
2. その結果、下表のとおり、コバルト、放射性よう素、セシウムの核種が検出された旨、21日21時40分に報告がありました。
3. 検出された核種のうち、「線量告示における周辺区域外の排液中の濃度基準」を超えたのは、よう素-131、セシウム-134、セシウム-137です。
4. 測定結果によれば、濃度基準は超えているものの、現状、20km圏内においては避難措置をとっているところであり、当該海洋域の現在の利用状況にかんがみ、直ちに人体の健康への問題とはならないと考えられます。
5. 本調査結果については、現在、原子力安全委員会の評価を求めているところです。なお、現時点では、調査ポイントは1か所のみであり、適切な評価を下すには至らない可能性もあるため、本日、文部科学省が海洋モニタリング調査を開始することとなっているほか、東京電力においても引き続き調査を実施する予定です。

検出された主な核種	放射能濃度 (Bq/cm ³)	周辺区域外の排液中 の濃度基準 (Bq/cm ³)
コバルト-58	6.0×10^{-2}	1.0×10^0
よう素-131	5.1×10^0	4.0×10^{-2}
よう素-132	2.1×10^0	3.0×10^0
セシウム-134	1.5×10^0	6.0×10^{-2}
セシウム-136	2.1×10^{-1}	3.0×10^{-1}
セシウム-137	1.5×10^0	9.0×10^{-2}

(本発表資料のお問い合わせ)

原子力安全・保安院

原子力安全広報課：渡邊、金城

電話：03-3501-1505

03-3501-5890